

日本精密測定機器工業会 広報誌

SOKUTEI

2026 January vol.2

TECLOCK
株式会社 テクロック 東京支社

測定で
日本の製造業を
盛り上げる



測定で日本の製造業を 盛り上げる

創業75周年を迎えた株式会社テクロック

伝統的な精密測定技術をベースに、IoT・AIを駆使した

革新を進めるテクロックの社長であり、

日本精密測定機器工業会の原田副会長に、

測定機器業界の現在と未来、

そして業界の活性化に向けた想いを伺いました。



Kentaro
Harada



創業75周年 精密機械が密集する諏訪に根差す

メティ: まずは株式会社テクロックについて教えてください!

原田副会長: 弊社は1950年(昭和25年)に長野県岡谷市で創業し、2025年でちょうど75周年を迎えました。ルーツは現在の東芝の計測事業を譲渡していただいたことにあります。諏訪地域は時計製造メーカーや光学機器メーカーなど多くの精密工場が集まる地であり、そこで培われた技術を応用し、当初からテクロックブランドで精密測定器を国内外に販売してきました。測定器の中でも元々アナログのダイヤルゲージを扱っており、そこから展開していったゴム・プラスチック硬度計の分野では今でも世界トップクラスのシェアを誇ります。そういった計測・測定の分野に、IoTやDXという言葉ができる前から、DXを意識した開発をしていました。もともと携わっていたコンシューマー事業の経験から、センシングし、そのデジタルデータを集約して、サーバー上で分析し、結果を配信するというような発想が生まれました。2017年に「SmartMeasure®」を発表しましたが、それが「測定DX®」のベースです。デジタル化することで得られる付加価値は単にペーパーレスによる効率化のみならず、品質改善のための測定データの活用そのものが、ものづくりにとってより重要になってくるということを当時から予見して開発を行い現在に至ります。本システムは新規性も認められて、「SmartMeasure®」システム全体で特許を11件取得しました。



AI共同研究 不良予測と最適化の仕組み

原田副会長: 2025年4月には慶應義塾大学と「SmartMeasure®」にAIの独自機能を加える共同研究を開始しました。「SmartMeasure®」の仕組みは、もともとリアルタイムでデータが集積し、ばらつきや標準偏差をリアルタイムで確認できるため、従来の試行錯誤から大きく進化しています。しかし、測定結果の将来予測機能や最終的に測定結果そのものを左右する生産諸条件の最適化までのフィードバック機能を持たせるためには更なるシステムのバージョンアップが必要となります。1つ目は異常予知機能で、集積されていく測定データをAIが学習することにより、製品が不良になる兆候を予測して、対策を講じられるようにする

機能です。試行錯誤では難しかった、スペックアウトする前の予知保全を実現します。

2つ目は最適生産条件のフィードバックです。温度、湿度、機械の調整値、人のデータなど、モノづくりに影響する多次元のパラメーターをデータとして集約してAIが分析することで、より高品質かつ高効率な生産条件を導き出し、現場にフィードバックします。

この最適化には、統計分析やクラスター分析といったデータサイエンスの技術も活用されていますが、AIの最終アルゴリズム(深層学習アルゴリズム)がないと、システムが自ら学習し、進化し続けるところまでは到達しません。このシステムはそこまでできる仕組みです。

メティ: ベー〜!!! すごい世界ベンね。

工業会の挑戦 「真面目な測定機器」のイメージを覆す

メティ: 2019年に日本精密測定機器工業会の副会長になられたときと今で変わったことや印象に残っているエピソードはあるペン?

原田副会長: ここ1、2年ですごく変わったと感じました。新しい方も参加されて、工業会全体がとっつきやすいイメージで、より広く理解してもらえるようになったかと思います。測定は縁の下の力持で真面目だけど目立たないイメージを持たれがちですが、モノづくりを引っ張る最先端で日本の強みを発揮できるようなところがPRできているのではないかと思います。工業会側のメンバーもスタッフがそろってきて、良い意味でかなり変わってきたと感じます。去年の70周年式典も良かったですね。80周年も予算を立ててしっかりとやりたいですね。来賓でお越しいただいた経済産業省の須賀課長も素晴らしい方で、計測機器業界に興味を持たれていると感じました。

ユニークな広報活動

メティ: 工業会の広報活動もユニークペンよ。「SOKUTEI」機関誌の表紙やトレーディングカードなど、反響はどうだったペンか?

原田副会長: この機関誌も評判が良いです。表紙に、これまでの測定機器のイメージとは全く違う、人物がメインで「SOKUTEI」と書いてあるビジュアルで、大きなインパクトがありました。今までこういった新聞を手にとらなかった人が「こういうこともやっているんですね」と言ってくださいました。発行されるまで自分の写真が掲載されるのは知らなく

て、びっくりしました。測定計測展とMECT2025で配布しましたね。入り口に冊子とかと一緒に置いてありましたけど、これはお客さんが結構取っていかれましたね。

あとは、トレーディングカード(SOKUTEIカード)も好評で、「スーパーレアですよ!」「あと1枚しかなくて...特別に」などとお渡しすると、お客さんとの会話のきっかけになり、コミュニケーションツールとして非常に役立っています。デジタル時代にあえてアナログなカードを使うのも、逆に面白いですね。

メティ: 実はメティもカードがあるペン!

機関誌「SOKUTEI」に期待

メティ: 今後、機関誌「SOKUTEI」期待する企画やアイデアはあるペン?

原田副会長: ユーザーさんの紹介は続けていただきたいですね。あとはインタビューや対談も良いですね。「日本のモノづくりの今後について」というテーマで経済産業省の方にインタビューをしたり、製造現場を背景に写真を撮れば「ちょっと面白そうだな」と感じてもらえそうですね。時々そういう企画があると面白いと思いますね。工業会所属企業の工場やユーザーさんの工場を見学して、今の課題とソリューションに国の役割も入れて、対談が実現するといいですね。

若い世代へのメッセージ 測定は日本のロマン

メティ: 最後に、モノづくりや測定器業界に関心を持つ若い世代へ向けてメッセージはあるペンか?

原田副会長: モノづくりは、一見地味に見えるかもしれませんが、**実はサイエンスの世界であり、非常に面白いロマン**があります。

ここに日本のロマンがあり、日本の強みがあります。日本がもう一度世界のトップに立て咲きほこれるために、**ぜひ若い皆さん、女性の方々に、この測定の世界の面白さ、ロマンを感じていただいて、一緒に日本のモノづくりを盛り上げていきましょう!**

TECLOCK®
Kentaro Harada



秋季研修会を新潟大学で実施

日本精密測定機器工業会にて秋季研修会を9月25日(木)に

新潟大学の五十嵐キャンパスで実施いたしました。

参加者は2班に分かれて、総合研究棟(物質系・生産系)にある

2つの研究室を訪問しました。

マイクロマシン工学研究室: MEMS技術
准教授 寒川雅之 氏

MEMSとは、エアバッグの車の衝突を検出する加速度センサやインクジェットプリンタのプリンタヘッド部など、私たちに身近な製品に不可欠な、髪の毛よりも小さなデバイスや、それを作る技術です。寒川准教授より、3つのプロジェクトの詳細について実演を交えてご説明いただきました。

パイオ班: 水晶共振回路式複素容量センサによるセンシングシステム
加工班: MEMS用途の新規材料開発
触覚班: 触覚センサ、触覚ディスプレイ

今回の研修会は短い時間ではありましたが、「MEMS」と「トライボロジー」という

精密測定機器と密接にかかわる2つの分野について学ぶことができ、大変有意義な研修会でした。



トライボロジー研究室: 表面現象の科学
准教授 月山陽介 氏

トライボロジーとは、摩擦、摩耗、潤滑などの表面現象を扱う科学技術分野です。トライボロジーの研究によって、機械や構造物の寿命を延ばしたり、効率を向上させたりすることが可能となります。研究室の実演では、当工業会会員企業の製品も活用されており、会員にとって身近な測定機器がどのように活用されているかを実感し、理解を深めることができました。

メティの てくてく 会員企業めぐり旅



永井ゲージがある地域は、今では住宅のほうが多いですが、昔は工場が多く存在する地域でした。そのため今でも、弊社のような工場をはじめ、昔なじみの「のこぎり屋根」の工場も存在する、住宅と工場がうまく混在する地域となっております。

よくニュースなどで飛び込んでしまう人がありますが、道頓堀川は浅いため非常に危険なんです。そのため、イベント開催時などはめちゃくちゃ高いバリケードを設置したり、万が一飛び込んでしまっても大丈夫なように、その時だけでも水深を深くしたりと大騒ぎです。しかしその一方で、飛び込んだ際に川の水を飲み込んでしまっても体調が悪くならないように水質改善



もされたので、悪い話だけではありません。あとは、グリコサインがある橋「戎橋(えびすばし)」は大阪では有名なナンバスポットで、グリコサインから歩いてすぐの場所に「くだいおれ太郎」もいるので、一緒に回れます。

くだいおれ太郎は生まれてから年月が経過しているため、図面が存在しません。そのため調子が悪い時に、明確にどこが悪いのかわからないうまく、ほぼ毎回、分解しないとかダメらしいです。あとは、やはり古いため結構壊れています。近くで見ると顔やメガネはボロボロです。

大阪にはユニバーサル・スタジオ・ジャパンもあります。代表的

な乗り物にハリドリ(ハリウッド・ドリーム・ザ・ライド)があります。こちらは「世界一流クラスのコースター技術と日本人技術者の緻密な建設技術が結集した究極のコースター」と紹介されるほど、コースターにありがちなガタガタ感や横揺れ感がほとんどなく、精密な設計と緻密な施工がされています。そのごごきは、後に開発されたハリドリの後ろ向きコースター、バックドロップ(ハリウッド・ドリーム・ザ・ライド〜バックドロップ〜)の誕生秘話に、ハリドリの基本性能がめちゃくちゃ高かったおかげで、「後ろ向き」という非常識な走行パターンでも安全面に全く問題がなかったという話があるほどです。

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンには弊社製品をご購入いただいておりますので、もしかしたらハリドリのメンテナンスなどに弊社の製品が使用されているかもしれません。

余談になりますが、大阪には難読駅名が多いです。喜連瓜破(きれうりわり)・雲雀丘花屋敷(ひばりがおかはなやしき)枚方(ひらかた)・放出(はなてん)・十三(じゅうそう) この程度の駅名でしたら、大阪の人は読めるでしょう。

代表取締役社長 森田 一義

メティの測定辞典

vol.2

ノギス編

「ノギス」ってなんだペン？

やっほー！SOKUTEIペンギンのメティだペン！
今日は、はかる道具の中でもとっても有名な「ノギス」についてお話すペンよ〜。

ノギスって、どんな道具？

ノギスはね、**モノの長さや厚み、内側や外側の直径、段差、深さ**をひとつでいろいろはかれちゃうすごい道具なんだペン。
ふつうの定規よりもず〜っと正確で、なんと0.01mmまで読めるものもあるペン！
しかもノギスには「外側をはかる」「内側をはかる」「段差をはかる」「深さをはかる」って4つのはかり方があるんだペン。
小さな部品の「ちょっとした差」も見逃さない、まさに「職人のものさし」ペン！

どんなところで使われてるの？

ノギスは、**精密部品の検査、学校の実験、研究室**だけでなく、**農家さんや水産加工工場**など、いろんな場所で使われているペン。
たとえば金属の棒の太さ、穴の直径、パーツの深さ…みんなノギスでチェック！
ぴったり合う部品を作るためには、こういう正確な測定が欠かせないペンね〜。

どうやって読むの？

ノギスには「本尺」と「副尺（バーニヤ）」があって、ふたつの目盛りを合わせて読むんだペン。
ちょっと慣れがいるけど、読み方を覚えると気持ちいいペンよ！（デジタルノギスなら、数字でピッと出るペン〜）

メティからしとこと

ノギスは、“はかる”ってことの原点みたいな道具ペン。
見た目はシンプルだけど、その1本でモノづくりの世界を支えてるペン！
今日もどこかの工場で、ジュッシュと使われているペンね〜。

測定計測展

MEASURING TECHNOLOGY EXPO 2025

日時

2025.9.10(水)〜12(金) 10:00-17:00

場所

東京ビッグサイト 西1ホール

測定計測展 2025では当工業会の合同技術委員会/三次元測定機部会が主催して、9月10日にセミナーを開催いたしました。今回のテーマは「計測で創る、ものづくりの未来」です。本セミナーに89名の方にご参加いただきました（内ウェビナー38名）。ユーザー、商社、メーカーの皆様にご参加いただき、三次元測定機をはじめとする測定技術向上のため、どのような目的・考え方で測定技術を学ばれたいのか具体例を示しながら説明いたしました。ご参加いただいた方からは、最先端の計測方法を得られ、わかりやすいセミナーだったとご好評いただきました。

時 間	講演内容	講 師
10:05〜11:00	高精度X線ミラー製造のための超精密形状計測技術	東京大学 先端科学技術研究センター 超精密製造科学分野 三村 秀和 氏
11:05〜12:00	光ファイバプローブを用いた微細形状測定機の開発	北九州市立大学 国際環境工学部 機械システム工学科 村上 洋 氏
13:00〜13:45	X線CT測定の精度保証 〜基準ゲージの開発〜	国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター 工学計測標準研究部門 幾何標準研究グループ 渡邊 真莉 氏
13:50〜14:30	CMMの温度耐性向上に関する取り組み 〜工場環境での精密測定への対応、環境負荷低減をめざして〜	株式会社ミツトヨ 研究開発本部 計測技術開発部 井上 友人 氏
14:45〜15:10	三次元測定機を用いた真円度測定の高精度化トライアル	鹿児島県 工業技術センター 生産技術部 岩本 竜一 氏
15:10〜15:35	プラスチック製低剛性製品における精密測定の考察	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター 電子情報システム部 和合 健 氏
15:35〜16:00	日本唯一！都産技研にしかないJCSS校正と日本初！「全自動・レベル出し調整装置」共同開発	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 技術支援本部 技術支援部 実証試験技術グループ 三浦 由佳 氏
16:00〜16:25	金属AM技術の可能性と信頼性向上を支える測定計測技術	福岡県工業技術センター 機械電子研究所 生産技術課 生産システムチーム 山田 泰希 氏

スタンプラリー&フォトスポット

Stamp Rally & Photo Spot

スタンプラリー参加企業 10社！

展示会を楽しみながら会員企業ブースを回れるように、各ブースへ設置した2次元コードからスタンプを集めるデジタルスタンプラリーを実施しました。

また、工業会のブースへ、メティと一緒に写真が撮れるフォトスポットを設置しました。

スタンプラリーには、3日間で386人の方にご参加いただきました。ご参加された方には、抽選で会員企業のノベルティや、メティグッズをお配りしました。フォトスポットでは、スタンプラリーの景品が当たった方が記念写真を撮影したり、展示会来場の思い出として撮影されたりする方が多く見られました。

会員企業からは、ブースの訪問者が増加した。普段あまり訪れない若年層の訪問により活気が出た というお声をいただきました。SNSには、スタンプラリーの感想やフォトスポットの写真の投稿も見られました。イベントを通じて、来場者と会員企業の交流が深まり、展示会の盛り上げに少しでも寄与できたのは、工業会としても成果だと考えています。

今回のようなイベントも含め、活動を通じて、測定業界の発展に貢献することは、工業会としての使命の一つであると考えています。今後も、楽しみながら測定について知る企画を提供してまいります。

MEASURING TECHNOLOGY EXPO 2025

新規会員のご紹介

New Membership

SCANTECH (HANGZHOU) CO., LTD

包括的な3Dスキャンソリューションのグローバルプロバイダー

SCANTECH (杭州) 有限公司は、高精度3Dスキャナーおよび3D計測ソリューションの研究開発・製造を行うグローバルメーカーです。独自の光学・アルゴリズム技術により、業界トップクラスの精度と安定性を実現しています。CNAS認証を取得した自社ラボを保有し、製品品質と計測精度を厳格に管理しています。自動車・重工業・製造業を中心に、日本の多くの大手エンドユーザーへ導入実績があります。

Shining3D Technology Japan株式会社

高精度3Dビジョンの技術と応用の普及

私たちは2004年より光学式3D計測技術に注力し、精度と革新性を追求してまいりました。当社製品は、高精度、高精密度、卓越したテクスチャ品質、そして詳細な形状ディテールで知られています。SHINING 3D精度試験所は、CNASによるISO/IEC 17025:2017認証を取得しています。当社の校正手順はVDI/VDE 2634規格に厳密に準拠しており、最高レベルの技術精度を保証します。この品質へのこだわりは、企業、業界、そしてお客様の製品研究、試験、製造ニーズに信頼性の高い品質保証を提供します。

安田倉庫株式会社

Logistics, Progress, Borderless.

安田倉庫は、1919年（大正8年）の創立以来、大消費地である首都圏・関西圏を中心に拠点を展開し、お客さまの物流の効率化をサポートしています。また、倉庫・物流サービスにとどまらず、精密機器のカスタマイズや事務プロセス効率化支援などのお客様の課題解決に資するサービスを行っております。従来の経験にとらわれない柔軟な発想力と創造力をもとに、お客さまのニーズヘスピーディにお応える高品質な物流サービスと不動産サービスをご提供いたします。

Tebiki株式会社

現場ノウハウと人材スキルを一元管理

Tebiki株式会社は「現場の未来を切り拓く」をミッションに掲げ、次の2つの現場支援システムの開発と提供をおこなっています。tebiki現場教育は、現場で簡単に動画マニュアルを作成し、従業員ごとの教育進捗状況の管理ができるクラウド教育システムです。tebiki現場分析は、設備点検や製造日報など現場帳票をデジタル化し、帳票の作成、記録、承認、分析が簡単にできるデジタル帳票サービスです。教育と分析の面から現場KPIの改善に貢献することで、幅広い業種のお客様にご採用いただいております。

Orbray株式会社

切る、削る、磨く。

私たちの事業はダイヤモンドやサファイアなどの素材の育成から、「切る、削る、磨く」の工程を一貫生産する工業用宝石を基軸として、専門性の高い産業分野において、多様なニーズに応えるコアパーツ及び製品の開発、製造に携わっています。お客様の想い一つ一つ丁寧に寄り添い、要望に真摯に答える『オーダーメイド技術力』、全自動・機械化では成し得ない「匠の技」を武器に、通信、半導体、ロボット、精密機器、医療理化学と多種多様なニッチマーケットで高い評価をいただいております。

第192回 理事会（2025年12月18日 開催）

第192回 議事録

議 題

- ① 工業会生産・販売状況
- ② 貸借対照表、損益計算書、収支計算書
- ③ 2025年度中間事業計画等実施状況
- ④ 審議事項
 - ・第56回 顕彰者のご承認
 - ・理事選任
 - ・第193回 理事会場所の決定

工業会生産・販売状況

当工業会の2025年の販売額合計は、10月までの実績に基づき87,140百万円となり、前年同期比で3.37%の減少を示しています。10月までの実績の平均値は8,714百万円であり、これを基に11月と12月の販売額を推計すると、年間の販売額合計は約1,046億円（前年比96.1%）になると予測されます。販売額は2024年と比較して減少していますが、今年の10月までの受注状況は前年同期比で101.6%の微増を示しており、回復の兆しが見られます。しかし、ロシア・ウクライナ戦争の長期化や、資源価格の高騰、物価の上昇など、日本の製造業に対する影響が不透明であることを考慮し、来年度の販売見込み額は今年度と同程度の1,130億円程度を目指す方針です。

貸借対照表、損益計算書、収支計算書の説明をおこないご了承いただいた。

2025年度中間事業計画等実施状況説明

測定計測展 2025 会期：2025年9月10日（水）～12日（金）

	出展社数	小間数	総入場者数
2025年	61社 (6展合計：304社)	122小間 (6展合計：528小間)	9,643人 (6展合計：51,084人)
2023年	57社 (5展合計：382社)	112小間 (5展合計：706小間)	11,333人 (5展合計：51,553人)

・スタンプラリー

第一測範製作所、テクロック、マグネスケール、ダイセイ、レニショー、東京精密、日本ゲージ、ミツトヨ、Orbray、尾崎製作所、日精測

・フォトスポットコーナー

・機関誌「SOKUTEI」創刊号配布

JIMTOF 2026 会期：2026年10月26日（月）～31日（土）

改修工事：東展示棟4-6ホール ▲25,690㎡（全体面積の21.7%）

（1）調整方針

・出展者数については持続可能性を考慮しJIMTOF2024の出展社数維持に努める

・効率的な小間調整を図るためゾーニングの一部を変更

（2）収容可能小間数

・約4,471小間（JIMTOF2024実績：5,744小間）

（3）削減小間数（削減率）

2024 出展実績	1小間	2～9小間	10～99小間	100小間以上
削減数（率）	±0	▲1小間	▲25%（±5%）	▲30%（±5%）

・工業会として2024年同様、3小間確保した

JIS関連（改訂・改正）

1. JIS B 7502（マイクロメータ）

2024年2月 区分Bで、日本規格協会に原案作成に関する応募申込書提出済、原案作成期間2024年7月1日～2025年2月28日 日本規格協会で作業中

2. JIS B 7524（すきまゲージ）

2025年10月 区分Cで、日本規格協会に原案作成に関する応募申込書提出済、原案作成期間2025年10月1日～2026年5月31日

審議事項

・第56回 顕彰者のご承認

計算式から会員8社より顕彰該当者の推薦をおこないご承認いただいた。

・理事選任

理事全員重任をご承認いただいた。

新理事候補のご承認：ハイデンハイン（株）

本日の理事会において、理事の重任・新理事就任の提案についてご承認をいただいた。尚、理事の重任・交代・退任・新理事の就任は通常総会での承認後、就任する。

・第193回 理事会場所の決定

日時：2026年4月16日（木）～17日（金）

場所：フェニックス・シーガイア・リゾート（宮崎）

今後のスケジュール

・令和8年 合同賀詞交歓会

日時：2026年1月14日（水） 15:00～17:00

場所：ホテル 椿山荘 東京 バンケット棟 1階 胡蝶（こちょう）

・第74回 通常総会

日時：2026年5月19日（火） 13:00～17:00

場所：ホテル 椿山荘 東京

番号順に
線でつなが
ペン！

メティの点つなぎ

なんの形に
なるペンかな？

